

| 企業インタビュー

柿原工業株式会社



会社名：柿原工業株式会社

所在地：広島県福山市箕沖町99-13

創業：昭和37年（1962年）4月

従業員：240名（2014年4月現在）

事業概要

樹脂製品の精密金型設計・製作から射出成形、表面処理（めっき＝メタライジング）、塗装、組立という源流工程から完成品までを社内一貫生産

ウェブサイトURL：http://www.kakihara.co.jp/

Q.留学生採用のきっかけと背景について教えてください。

弊社は、樹脂製品の精密金型設計・製作から射出成形、表面処理（めっき＝メタライジング）、塗装、組立という源流工程から完成品までを社内一貫生産しています。プラスチック等の素材を成形し、古代から伝わる「めっき」の技法をベースに装飾性・剛性・耐久性など様々な機能を付加。

特にガスアシスト成形と樹脂めっきの複合技術を持ち、金型設計・部品成形、また製造設備の開発や改善まで自ら量産体制を確立し納品するという「完全一貫体制」を行っています。当社の製品は自動車分野をはじめ住設機器・農機具・建設機械など様々な領域で幅広く使用されています。

留学生採用の背景については、自動車業界のグローバル化が挙げられます。弊社の取引先として、自動車関係メーカーが多いのですが、各社海外の生産拠点を拡大している傾向があります。

また、自動車関係メーカーは部品工場を国内で生産し、海外の組立工場に輸出する形態が多かったのですが、最近は海外での地産地消を行う傾向があります。

一方で、弊社の製品の輸出も自動車メーカーの海外展開に伴い2008年頃から増加しています。増加する輸出対応も行いつつ、地産地消の対策として、日系自動車メーカーが生産量を増やしているタイで2013年5月に現地法人を設立し2014年9月から量産開始しました。

このような背景のもとに、人材の部分についてもグローバル化を行う必要がある為、2012年に留学生を初めて採用しました。

Q.留学生採用と活用の状況について教えてください。

2012年に弊社の海外展開を進める上で必要な留学生採用として、英語、中国語、日本語が堪能な孫さんを採用しました。

（2015年6月にはタイの人材を国内で採用し勤務していただく予定です。この人材については、タイの現地法人と日本本社の架け橋となりうる人材として採用をしました。）

初めて外国人採用を行う際は受け入れ体制の不安はありましたが、孫さんは日本語も堪能で日本での生活も長く文化慣習の理解もあったので特にコミュニケーションなどで苦労する面はありませんでした。

留学生採用した成果としては、英語力は海外との窓口として非常に助かっています。

また、同世代の日本人よりも自身の成長に対するモチベーションが高く、周囲の日本人に対して非常に刺激となっているので、会社として内なる国際化ができればと考えています。

Q.留学生の受け入れについて企業として配慮している点等教えてください。

孫さんは、秋卒業だったため、日本人学生の採用タームから半年遅れた10月に入社しました。同期と半年遅れで入社となったのですが、日本人の新卒者と同様の研修を受け、各部署を経験して現在の海外業務室に配属となりました。

また、弊社では日本人の新卒者にもメンター制を採用しており、同様に個別フォローを行っています。

その他に何か支援が必要な場合は、都度対応

する対応をとっています。

Q.キャリアパスや期待する事について教えてください。

現在は2012年に設置した海外業務室の主担当として貿易業務、海外のクライアントの窓口、海外現地法人の窓口を主な業務として活躍しており、今後も日本と海外の架け橋になれるように頑張ってもらいたいと思っています。

最終的には本社の幹部候補としても期待しております。



柿原工業株式会社
海外業務室 室長代理 柿原 卓矢さん